

春まき 飼料

栽培計画にあたって



一 乳牛一頭にどれだけの飼料が必要か

貴重な土地と資材を用い、窮屈な労力を使って生産する自給飼料は不足はもろん困りますが、余剰も必要ありません。作付計画にあたっては繫養頭数を基礎にして正確な計算をし過不足のないようにしましょう。

(一) 乳牛一日の所要量は、乾草で二三〜二五キ、生草では約八〇キ。

濃厚飼料も現在の能力の高い牛には必要ですから、ある程度の濃厚飼料を用いますと、乳牛に対する粗飼料の準備量は体重の二・五％程度（乾草：水分一七％）は必要ですから、圃場から生産すべき、生草では年間量として二九キ前後のものが必要となります。

(二) 量に伴う質の生産も必要

粗飼料という言葉から来る感じとして、とかく量だけで質が等閑視され勝ちですが、粗飼料といえども体を維持し、更に牛乳生産にも利用されるべきものですから、栄養価の高いもの、つまり質の生産も当然考えなければ片手落ちとなります。

前記の二九キの粗飼料から、栄養価として期待したいものは、養分総量で約三、〇〇〇、可消化粗蛋白で三三〇キ、飼料単位法の場合は三、六〇〇単位と、可消化純蛋白三五〇キ内外が得られれば先ず普通乳牛の八〇％以上は自給可能ということになります。

この量と質が年間はもちろん季節的にも平均して得られるように飼料作りの計画を立てましょう。

二 春まきではどんな牧草、作物が主として使われるか

牧草、飼料作物の種類品種は随分多いのですが、播種時期を春ということに限定して、作付の場所によつて分けてみますと、次のようなものが有利でしょう。

(一) 暖地の場合

○水田前作

△早春の二〜三カ月間で収穫する場合

青刈えん麦、イタリアンライグラス、レープ、C・O、紫丸かぶ、紫長かぶ、コンモンベッチ。

△晩春から三月月ぐらいで収穫する場合

青刈大豆（夏型の早生系、雪印九号、一〇号等）、玉蜀黍、青刈ひまわり。

○畑地

△春まき夏どり

青刈えん麦、イタリアンライグラス、クリムソククロバー、パーシムクロバー、レープ、C・O、青刈大豆、紫丸かぶ、家畜ビート、家畜南瓜（ボンキン）、コンモンベッチ、玉蜀黍、ひまわり。

△春まき夏秋どり

玉蜀黍、スーダングラス、ソルゴー、テオシント、パールミレット、カウビー、大葉つるまめ、青刈大豆（夏秋型の晩生系、実取玉蜀黍一代雑種（ハイブッドコーン））

○草地

△既成草地への追まき（なるべく早春に）

ラデノクローバー、イタリアンライグラス、オーチャード、メドウフェスク。

△耐暑性草地造成の場合

ルーサン、赤クロバー（ケンランド）、バースフット、トールオートグラス（なるべく早春に）、バーミユター

グラス、バヒヤグラス、ダリスグラス（晩春に播種）

(二) 寒冷地、高冷地の場合

○水田の前作

△早春播種二〜三カ月で収穫できるもの
イタリアンライグラス、青刈えん麦、コンモンベッチ、レープ、C・O、紫丸かぶ。

○畑地

△早春まき夏どり

青刈えん麦、イタリアンライグラス（秋まで継続して収穫）、クリムソククロバー、レープ、C・O、紫丸かぶ、紫長かぶ、コンモンベッチ。

△早春まき秋どり

家畜ビート、ルタバガ、スイートクロバー、その他
牧草の単播、家畜人参。

△晩春、初夏まきの夏秋どり

玉蜀黍、青刈大豆、青刈菜豆（サットンスペシール）、青刈ひまわり、家畜南瓜（ボンキン）、紫丸かぶ、紫長かぶ、ハイブリッドコーン（実取り）レープ、C・O

○草地造成

△ラデノクローバーへの追まき（早春播種）

イタリアンライグラス、オーチャードグラス、メドウフェスク。

△早春まき年内一〜二度収穫

イタリアンライグラス（〇・五キ）、クリムソククロバー（一・〇キ）、赤クロバー（一・〇キ）、オーチャードグラス（一・〇キ）、ラデノクローバー（〇・二五キ）、程度の混播（保護作物のえん麦、亜麻は不要）

△永年草地の造成（なるべく早春まきよし）

まめ科Ⅱ赤クロバー、ラデノクローバー、アルサイククロバー、ルーサン。

いね科牧草Ⅱチモシー、オーチャードグラス、ライグラス、ブROOMグラス、メドウフェスク、

リードカナリグラス等より立地条件、利用年数に合致するものを数種選定混播。

■ 各地域別にみた

今春の飼料増産の方向

—エサのやり方の欠点をなすために—

東山	関東	山陰	北陸	東北	北海道	地域
近郊地帯 (専業、蔬菜)						経営形態
(2) 屑野菜利用が主体	(1) 粕類、濃厚飼料を主体としてこれに牛を合わせる特殊飼育	(2) 冬一裏作れんげのエンシレージ、乾草利用	(1) 夏一田畑輪換を主軸として牧草と畦草の併用	(2) 冬エンシレージを主体としている	(1) 夏一ラデノクロバールを主とした牧草の青刈、放牧	現在の飼料のやり方
蛋白と固形物の不足	ビタミン、固形物の不足	稲ワラ過用、根菜不足 (生鮮(ビタミン類)飼料の不足)	早春、晩秋の青刈不足 (絶対量の時期的不足) (蛋白過剰)	野草、蕪稈類の利用多く、根菜、乾草不足(蛋白不足)	養分総量の不足(蛋白過剰)	り今方の餌欠の点や
○集約草地の造成 ○乾燥飼料の増給	○小面積から多取出来る作物の栽培	○乾草草、根菜の増産	○水稲作期移動による裏作青刈の円滑供給 ○未利用地の牧草地化	○野草蕪稈類の利用度を高めるための根菜増産 ○エンシレージの高蛋白化と若刈乾草の増産	○いね科牧草の混播または乾草の併用 ○いね科青刈類の併用	改善すべき方向
○ラデノクロバール、ライグラス混播草地の造成 ○ルーサン単播草地の造成 ○稲ワラ、野草利用に併行してかぶの準備	○かぶの栽培 ○デントコーンの時なし(密播)栽培 ○テオシントの栽培	○草地造成と改良 ○イネ跡地でのかぶの作付、ルタバ、ガ移植 ○畦畔河川敷の牧草導入による乾草草の取得	○収穫利用期間の長いクロバール、イタリアンライ等の裏作利用 ○稲前後作による飼料栽培(イタリアン、レープ、かぶ、えん麦の早春まき、レープ、かぶ、ライ麦、えん麦、デントコーンの早期イネ跡作)による牧草、畦草の貯蔵転用	○家畜ビート、かぶ、ルタバの作付 ○かぶ単一作付地域では晩春利用のルタバ移植栽培も行う ○草地改良(林野転換)による牧草エンシレージと乾草の増産 ○デントコーンと豆科(カウビ、菜豆、スイトクロバール、青刈大豆)作物との混作による高蛋白化	○乾草用採草地の造成 ○いね科青刈類(麦類、イタリアン等)の作付	改善のための具体策

米麦等の主作物の生産を妨げないよう、裏作、間作と、専ら裏街道を歩んで来た飼料栽培も、麦、いも、桑の斜陽化と、畜産食料消費の急増とによつて、成長作物として愈々本格的檜舞台に登場してまいりました。

しかし飼料作物の栽培は実とり作物と違つて迂回生産です。つまり単なる飼料の増産だけでは結果が出ません。飼料の増産が家畜と結びつき有効生産、すなわち乳肉卵毛の増産となる必要があります。

そこで今春はただ単なる飼料増産だけでなしに、畜産物の増産にちよつとの無駄もない飼料の増産を計画しましょう。そのためには現在の飼料構造、つまり貴方の飼料の準備や、やり方を検討して、どこに欠かんがあり、どこが弱点かを知る事が必要でせう。その参考にと各地域別にみた飼料のやり方と欠点を掲げました。

さて貴方の今春の飼料増産の方向と改善点は……早速具体策を立てて実施に踏み切りたいものです。

と

東 海		近 畿		西 南		暖 地	
湿地地帯	畑作地帯	乾田地帯	養蚕地帯	山地帯	中、四国地方	九州地方	
畦畔草と稲ワラに依存、年間飼料給与の最も困難な地帯	(1) 夏→ラデノクロバークを基礎 (2) 冬→サツマづると陸稲ワラ	北陸と山陰地方に準ず	蚕澁、蚕糞と水田裏作の利用	(1) 夏→青刈 (2) 冬→エンシレイジ	(1) 稲ワラ、れんげ (2) 野草、青刈、エンシレイジ	(1) 秋、冬の青刈は豊富 (2) 春、夏の暑熱期に飼料不足	
量的、質的に年中不足	養分総量の不足(蛋白過剰) エンシレイジ偏重	夏草の不足 冬の乾草、根菜不足	夏草の不足 冬の乾草、根菜不足	栄養の时期的偏り 家畜の不健康	时期的、質的に不足を生ず	夏期の暑熱期に高粱飼料の不足	
○河川敷草地への依存度を高める ○土地改良(排水)による裏作導入	○いね科牧草の混播、青刈いね科作物の栽培、乾草草利用 ○乾草草と根菜の利用度を高める	○園地の下草改良(寄畦栽培) ○冬作飼料の桑園間作	○園地の下草改良(寄畦栽培) ○冬作飼料の桑園間作	○高蛋白の乾草草の利用を高める ○冬期根菜の準備 ○裏作表の飼料作転換 ○水稲作期移動による長期間の連続収穫	○秋冬の青刈によるエンシレイジ、乾草準備 ○耐暑性牧草の栽培 ○耐暑性青刈作物の栽培	○秋冬の青刈によるエンシレイジ、乾草準備 ○耐暑性牧草の栽培 ○耐暑性青刈作物の栽培	
○牧草播種によつて河川敷よりの良質草の多収 ○耐湿性牧草、アルサイクローバ、イタリアライグラスの裏作導入(高畦栽培) ○畦畔へのラデノクロバーク、ライグラス、オーチャード播種	○甘藷、麦、陸稲、表の作付体形を甘藷、牧草、陸稲、根菜(青刈)に切替 ○飼料作物専用畑の設置	○ルーサン、オーチャード等牧草導入による夏草の確保と乾草作り ○かぶ、青刈栽培による根菜と乾草準備	○ルーサン、オーチャード等牧草導入による夏草の確保と乾草作り ○かぶ、青刈栽培による根菜と乾草準備	○野草地への牧草導入 ○水田前作として燕麦、レーフ、かぶ、玉蜀黍、青刈大豆、ひまわり作付 ○後作として、イタリアン、麦類、レーフかぶ、玉蜀黍等の作付 ○裏作の励行、山野草生改良	○裏作増加による余剰飼料の貯蔵 ○山野の草生改良による乾草準備 ○ルーサン、バーズフッド、プローム、バミューダ、ダリス、バヒヤ等の耐暑性牧草の導入 ○テオシント、スーダン、ソルゴー、カウピー等の夏作物栽培		